



# からしだね

2013年  
1月号(479号)

キリストの受難  
カトリック池田教会

共同宣教司牧: 畠 基幸神父・染野治雄神父  
協力司祭: デニス・マックゴワン神父  
住所 : 〒563-0041 池田市満寿美町9-26  
TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624  
URL(ホームページ) :  
[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/)



巻頭言 .....	2	典礼委員会から .....	3
維持費等納入依頼 .....	4	総務委員会から .....	4
研修委員会から .....	4	ガラスケースの言葉 .....	4
樹木の剪定 .....	5	お米180Kgの寄付 .....	5
待降節黙想会 .....	6	東条湖の家・けやき坂の家から	7
ハロウィンパーティ .....	8	歳末たすけあい募金 .....	9
チャリティコンサート .....	9	北摂地区リーダー研修会 .....	10
円ぶりお基金センター .....	12	からしだね俳壇 .....	13
宝塚黙想の家から .....	14	表紙写真説明 .....	14
説教台の掛け布 .....	14		

表紙写真: 長崎県平戸市 カトリック宝亀教会 撮影: 仲 真人

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です  
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください

## 巻頭言

「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。

この子は自分の民を罪から救うからである。」 (マタイ 1章21節)

畠 基幸神父

主の降誕と新年の慶びを申し上げます。

皆さま、わたしは2006年11月26日に着任してから7回目のクリスマスと新年を池田教会で迎えます。もう7年目が始まったのです。これは私にとって驚きです。いつの間に時が過ぎていったのでしょうか。そして、永遠のサンタクロースであるデニス神父さんは、2012年も老いてなお元気な姿で子供たちにプレゼントを配り、愛のお父さんを務めました。

年々教会の建物も古くなり、設備も老化しています。教会役員の維持管理の気配りで、ほとんどの修理の必要なところや寿命が切れた消耗品はその都度交換されているので、不便を感じることも困ることもありません。今は、創立の時から皆さんがいらるのでうまく回転しているのです。このまま回転していけばとお祈りもしお願いもしても、暦が自動的に変わるように、この先、教会の世代交代がスムーズに行くようには思えません。各家庭の子供さんたちが、まず私たちの前の世代の時のようには、ミサには来ないのです。私たちの世代では、二分化して、自分のためになると思えばミサに来たのです。しかし、次の世代は、神の存在すら信じていないかのようです。

このことは現代世界の共通の現象と言えます。教皇さまの「信仰年」発布の動機は、信仰の深刻な危機が私たちキリスト信者の家庭にまで及ぶ中で、信者一人ひとりが信仰の道を再発見するように導くことです。キリストと出会うことの喜びと新たな熱意を求め、「新たな福音宣教」への取り組みを全教會的に始めることなのです。教皇さまは、回勅「神は愛」に続く第二の回勅「希望による救い」において、かなり詳しく現代の信仰の危機を分析されています。その一端を要約的に紹介すると、「希望は、本質的に神を知ることに基づきます。しかし、近代科学の発展は、信仰と希望を私的で個人的な領域へと追いやりました。だからこそ、人類と世界は神を、それも真の神を必要としている。神がいなければ希望は失われたままだからです。科学は多くのよいものを人間に与えてくれました。しかし、人間をあがなうことはできません。人間をあがなうのは愛です。愛は個人と社会を寛大にします。そしてそれを保証するのは神です。神は愛だからです」(前掲書 p110)。

「信仰の危機」の根は何なのか、教皇さまは、この回勅のなかで、神の愛による「あがない」と科学による「あがない」ということばを使って説明されます。『近代におけるキリスト教的信仰と希望の変容』の項目で、どうしてイエスのメッセージを厳密に個人主義的に解釈するようになったのか、また、すべてのものごとに対する責任から逃れた「魂の救い」という解釈が生まれたのか、なぜ、キリスト教が目指すのは、利己主義的な救いの追求と考えるようになったのかを、近代の基盤をなす諸要素に目を留めて解説しておられるのです。教皇さまはフランシス・ベーコンの思想(1561~1626年)を紹介して、「新しい時代の基盤となるものとは、実験と方法の新しい関係づけで、関係づけによって、人は自然法則に従って自然解釈をおこなうことができるようになり、ついには『技術の自然に対する競争の勝利』にまで到達したものになった」と述べて、「この関係づけが神学的な意味を与えられると、原罪によって失った被造物の支配権は、科学と実践によって回復される」と信じられるようになったのです。この思想の言明を考察すると、当惑すべき歩みが始まったと教皇さまは推論します。つまり、人間が樂園からの追放によって失ったものの回復は、イエス・キリストへの信仰によって回復されると期待していたことが、今や、『あがない』(失われた樂園の回復)を信仰ではなく、科学と実践の間に新たに発見された連関が与えてくれるものに期待するようになったからです。ここでは「信仰は否定されず、別の次元、すなわち完全に私的な、あの世のことがらの次元に移された」のです。

「信仰はある意味でこの世と無関係なもの」となり、「この計画的な思想が近代の歩みを規定しました」。そして、「これが現代の信仰の危機」の原因で、しかも、「キリスト教的な希望の危機」となったことを指摘されます。それは、「今や希望は進歩への希望」と置き換えられたからだと…。しかし、科学を否定するのではなく、このあと、すぐに「理性と自由」の進歩思想のことを取り上げ、「この二つの中心概念は、暗黙の内に、信仰と教会の拘束や国家体制の拘束と対立するものと考えられました」と批判的に吟味して、信仰の危機との関連を露わにされました。

「信仰年」の取り組みに、「カトリック教会のカテキズム」を学習して、イエス・キリストへの信仰を再発見するように教皇さまは促しておられます。それは、単に、キリスト教信仰の信仰箇条の知識を増やすということよりも、「理性が本当の意味で人間的な理性」となり、わたしたちの受けた信仰が、「現代のわたしたちにとっても、希望であり、生活を造り変え、支えることができる」(p27) ことを再発見することだと繰り返し説明されます。私自身、教皇さまの指摘によって、「私的な、個人主義的」信仰を引きずっていることを感じました。「共同体的信仰」とお題目を唱えるだけで、真の共同体を体験したことがないので、わたしの説教の力も教えも弱いと感じています。ですから、この「信仰年」は、本格的に自らの信仰と向き合い、取り組む一年としなければならないと願っています。

新年も このような未熟そのものの司祭のためにお祈りください。わたしも微力ながら皆さまとイエスのために働きます。聖霊によって！マラナタ



### 典礼委員会から「あれこれ」

☆ 島神父様のご指導のもと、聖体奉仕者、信徒有志の方々のご協力で、病者訪問の回数が増えているようです。

イエス様にならって、私たちも病に苦しむひとたちを訪れ、すこしでも癒しの助けとなることができますように。

また日頃お目にかかれない兄弟姉妹が池田教会とのつながりを感じて、力づけられますように。

☆ 春には美しく咲く桜の木も、秋になると葉が色づき始め、

雨にうたれた紅葉が散ると、掃いても掃いてもきりがありませんね。

いろんな方がいろんな時間に落ち葉を集めてくださっていたと思いますが、

平日の朝、幼稚園に園児を送りに来られたお母様方の有志が、

毎朝早い時間に掃き掃除を担当してくださっていました。

教会の桜の木は、教会のみならず、幼稚園、地域に愛されているようです。

大切にしたいですね。

## 維持費等納入の依頼について

平素は教会の維持管理につき、ご協力を頂き、ありがとうございます。  
平成25年1月からの納付票をクリスマスメッセージに同封しています。  
よろしく願いいたします。献金袋は従来のものでお使いください。  
見当たらない時は、ご連絡くだされば作成します。 (財務委員会)



## 総務委員会から (植木剪定のお手伝いのお礼)

今年も教会庭の植木の剪定作業が11月20日(火)、無事に行われました。

当日は、篤志家が派遣してくださった池田市のシルバー人材センターの剪定師さんたちが、手際よく中庭の枝を切り落としていってくださるのを、十数名の信徒たちで集めて袋詰め作業をいたしました。途中お戻りになった畠神父様もお手伝いくださいました。

午前中に中庭と信徒会館側の生垣が終わり、午後からは聖堂横の木と聖堂側の生垣の剪定が順次進められました。桜の木は特別な機材が必要とのことで、別途後日行われましたが、大きな90リットルの袋に32袋もの枝が切り落とされました。

お手伝いは女性でも十分にできますし、木の香りが漂う中の作業はなかなか楽しいものでした。また、お昼はこれまたボランティアの皆様による手作りのヘルシーでおいしいお食事を出していただきました。作業の後の皆さんで頂くご飯のおいしかったこと。ちょっと得した気分でした。

皆様のご協力のおかげで、教会もすっきりとして待降節を迎えることができました。ありがとうございます。どうぞ、来年からもたくさんの皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

(関連記事：5ページ)



## 研修委員会から

2013年2月10日 中高生お泊まり会宿泊者をさがしています。

現中高生の保護者、または女性で泊って下さる方がおられたら、お願いします。

## 1月ガラスケースの言葉

一粒の麦が地に落ちて死ななければ一粒のまま残る  
しかし死ねば、多くの実を結ぶ

ヨハネ 12・24

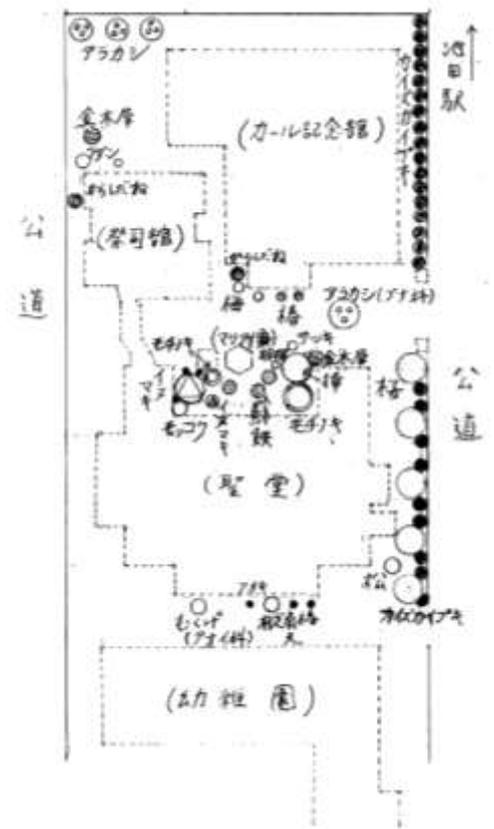
## 樹木の良好な生育と公道の安全のために20種・29株の樹木を剪定

11月20日(火)に池田教会敷地内の樹木の剪定と手入れが行われました。敷地中央にある4株の常緑高木(アラカシ、楠、モチノキ、イヌマキ)と生垣のカイズカイブキは、一信徒からのご厚意により依頼することができた池田シルバーセンターの剪定師3人が剪定し、その他の14種類の常緑低木については総務委員会の指揮によって約20余名の信徒が行いました。切り落とされた枝葉類は32ケの60リットル袋を満杯にしました(写真1)。剪定され、すかさず樹木の木肌、葉形、実などの特徴がはっきりと見えるようになったのでその生育場所を右図に示します。

12月4日(火)には5株の桜—染井吉野の公道に伸び出た大枝と枯れ枝が業者によってクレーン車を用いて主幹近くで切り除かれました。池田市役所の指導に従って、公道上にある枝が強風によって揺らされたり折られて通行する人や車両を傷つける事故を未然に防止するためですが、ウイルスに侵された枝と聖堂屋根上に伸びた枝も除かれました(写真2)。立ち会った樹木医によると残された枝にはこれまでより多くの花と葉が育つとのことですが、しかし、40年前にデニス神父によって植栽された染井吉野の平均寿命が50年であるのを考慮して、教会門から南へ2番目の株と3番目の株の間に新春には2代目となる若木を育て始めることになりました。



(写真1)



(写真2)

## 教会にお米180キロを寄付

去る10月29日、雲田助祭と私は、樫原市の森村怜子さん宅(国の重要文化財の森村家)へ、お米を180kg頂きに行ってきました。

カーナビのない修道院の車、今回はiPadの道路地図でスムーズに到着。

きっかけは、私の同級生フクちゃんです。フクちゃんは鹿児島市内の県立高校へ越境入学する為、森村さんのご実家に下宿していました。そう、二人は親友です。

フクちゃんは元スチュワーデスのボランティア団体で、釜ヶ崎の炊き出しのお米を届ける活動をし、森村さんからお米を買っています。

「あら、池田教会も毎月届けているのよ」と私がフクちゃんに話すと、森村さんに伝わりました。「新穂さんにはタダであげるわ」と、今迄も5～6回、250kg程のお米や冬物衣類をいただいています。亀山さん・小正さん・小杉さんにも手伝っていただきました。大学生の次女も手伝いに行きました。

えっ、フクちゃんですか?今でも、お金を払って森村さんからお米を買い、釜ヶ崎に届けています。森村さん・フクちゃん、ありがとうございます。(新穂 寿子)

## 「神秘的」—— だが確かな手応え グイノ神父様の黙想会に与って

大山 利郎

### ■一瞬にして回心した人■

グイノ神父のお話は、著しく「神秘的」でした。

神父様は5歳の時からミサに与り、聖体奉獻の際、ご聖体から「愛の光」が出て、一瞬にして神さまを理解しました。7歳で初聖体を頂きましたが、それまでの2年間、信仰を疑ったことはなかったそうです。

神さまから来る、このような一瞬のお恵みは、人を回心に導くことさえある。神父様は2～3人の例を挙げられました。私はユダヤ人ラチスボンヌだけが分かりました。

この人は、不思議のメダイの聖母のご出現を受けて回心、後に司祭となってエルサレムで同胞の改宗に尽力しました。



### ■死者のために祈ること■

また、死後の審判について、次のように説明されたと思います。

『死者のために祈るのは非常に大切。人は死に臨んだ時、約10分間、神はその人に全生涯を示される。その間に、人は「自分がよい生き方をしたかった」と、神に訴えることが出来る。神さまが、それを認められれば天国に行ける。周囲の人は、死に臨んだ人の訴えが、神様に聞き入れられるように祈るべきだ。地獄には、人がいるかどうか、私は知らない。悪の問題は神さまご自身が解決してくださる。』

ここで「10分間」と仰ったことは、文字通りに解釈すべきではないと思います。聖書にも出てくる神秘を表現する象徴でしょうか。そこで私は、次のように解釈しました。

『死者に出会ったら、すぐに祈るべきである。グズグズしていれば、わずか10分の時間のように、すぐに過ぎ去る。そして祈ることを忘れてしまえば、死者の役に立たない。』

次の「3歳」という数字も象徴的だと思います。

『子供たちは3歳までは、悪魔は誘惑することを許されない。だからこの年齢の子供たちは清い。』

### ■歴史上の人へのとりなしの祈り■

私が最も驚き、考えさせられたのは「歴史上の人への祈りのとりなし」です。とりなしの祈りは極めて大切に、貧しい人、弱い人に大きな幸をもたらします。神父様が歴史を読まれる時、恐ろしい人が一杯出てきます。ネロ、カリグラ（ネロの伯父のローマ皇帝。乱行で有名）、スターリン…等々。神父様は、これらの人々のため（朝ミサで？）とりなしの祈りをされます。

驚きましたね。最近亡くなった人のために祈るなら、記憶にもあり、無理なく受け入れられます。しかし何百年も前の人には、自分とは無関係、と思われて祈れませんでした。



### ■大切な真理を気づかず■

でも、これは意外に大切な真理かも知れません。神父様は次のように説明されました。

『キリスト様は仰います。「私は、これら残忍な人のためにも私の血を流した」。ただ条件として、私たちがその人たちのために祈ることが必要』だそうです。

11月の死者の月に、自分の家の先祖代々のためにミサをお願いします。記憶に残る両親や親族のために祈って頂くのですが、同時に我々の記憶に

はない何十年何百年も前のご先祖のためにも、併せてお願いしているのでしょうか。もしこのミサがなければ、名前も顔も知らない、遠い遠いご先祖に冥福をもたらすことはないでしょうね。

こう考えると、歴史に出てくる過去の人達のためにもとりなしの祈りが出来るようです。



### ■大嫌いだっただ日本の軍部■

私は日本という国を愛していますが、戦前の軍部の横暴を憎んでいました。厳しい青少年時代を送り、学校を卒業するまで、貧乏に悩まされました。原因の一つに、生家が空襲で全焼したことです。

敗戦直前、米軍の焼夷弾が落ちて大阪の中心部にあった木造のわが家が炎上。父と2人で呆然と見ていました。父は私を自転車の荷台に載せて、空襲の町を逃げ歩きました。でも子どもの頃は自分の貧乏の原因を考えることはありませんでした。長じて次第に、なぜ自分があんなに苦労したかを思うようになりました。

『日本軍が大陸で、ひどい残虐行為をした。当然、国に天罰が……。その連帯責任として、罪もない国民が償いをさせられる。わが家が焼かれて、長年赤貧に陥ったのは彼らのおかげ。何たる迷惑!』と。以来、戦前の日本軍、また施政者を憎み嫌うようになりました。(余談ですが、国の借金の付けを子孫に回さないために、不愉快だが消費税に賛成しました)。

でも、いつまでも、こんな精神状態で良いのでしょうか。

「犯罪被害者の会」というのがあります。犯人に厳しい処罰を求めます。キリスト信者にとって複雑な気持ちですよね。「汝の敵を愛せよ」とキリスト様は仰いました。でも人情として、被害者の気持ちもよく分かります。

私が残虐な日本軍を憎む気持ちも、人々は理解してくれるでしょう。でもキリスト様はどうでしょうかね。「何時までもそんな気持ちを持つな」と仰っているようです。

グイノ神父様は、歴史上の遠い過去の人のためにも、とりなしの祈りができる、と教えて下さいました。私も恨みを忘れて大損害を与えた軍人のために、罪の償いと冥福を祈るべきでしょうね。

### ■聖マリア・ゴレッティイ■

ちょっとエエカッコさせてください。そのためには、私が憎しみの気持ちに打ち勝つ必要がある。御受難会と関係の深い聖マリア・ゴレッティイの臨終の言葉を思い出します。

「私は赦します」。享年11歳——なんて言いましたが、実行できるかどうか、はなはだ心許ない限りです。(´o`) (^o^) (^o^) (^o^)

## 東条湖の家・けやき坂の家から

池田教会 司祭の皆様、バザー委員、信者の皆様

＋主の平安

紅葉が色付いてきました。

先日の教会バザーでは大変お世話になり、ありがとうございます。

今年も沢山の皆様に私達の商品をお買い上げ頂き、心より感謝致しております。

ハンディを持つ仲間達にとって、

教会のバザーに参加し皆さまとお会いする

一日はとっても楽しみな日であり、又、

お仕事の励みになっています。

ぜひまた来年も宜しくお願い致します。

感謝のうちに…



# ハロウィンパーティ (10月27日)

毎年恒例のハロウィンパーティが、日生中央教会と合同で開催されました。子どもも大人も仮装して、楽しいパーティとなりました。

※ 1か月遅れの掲載となり、申し訳ありませんでした。



## 歳末たすけあい募金 (12月2日)

毎年恒例の歳末たすけあい募金を阪急池田駅で行いました。子ども達が頑張りました。



## クリスマスチャリティコンサート (12月9日)

恒例のクリスマスチャリティコンサートも今年で37回を迎えました。

今年はハートフルクリスマスというタイトルのもと、ゴスペルの暖かい、エネルギッシュな歌声で大いに盛り上がり、楽しいクリスマスコンサートとなりました。

昨年に引き続き東北支援を目的として行われたコンサートは、その趣旨に賛同して下さったNPO法人の大阪ダイアログクワイヤーとコラボピースの皆さんの終始笑顔を決やさないパワフルな雰囲気から最初から熱気に包まれました。最後には全員が手をつないで東北への思いをつなぐという心温まるシーンに思わずジーンときた、という参加者の声もありました。特筆すべきは、会場にいた8か月の赤ちゃんが、皆の手拍子に合わせて一緒に手拍子をしていたこと！お母様もびっくりされたようです。赤ちゃんにまで届くほど、皆の心が一つになったということですね。

皆様のご協力のもと、20万円ほどの収入がありました。経費を差し引いて教会にも一部を還元させて頂き、東北の皆様のお役に立つように使わせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。また来年もよい企画を考えていきますので、お力添えをよろしくお願い申し上げます。(チャリティコンサート実行委員会 鋤納 美佐子)



## 2012年度 北摂地区リーダー研修会

11月18日(日)13:00から吹田教会で北摂地区リーダー研修会が行なわれ、池田教会からは荒木・磯野・桜尾・鈴木・マイヤー成子・マイヤーデイビッド・染野神父様・畑中の8人が参加しました。他の教会(高槻、茨木、吹田、箕面、豊中、千里ニュータウン、日生中央)からも合わせると、総勢は37名でした。テーマは「子ども達に何を伝えるのか? どのように伝えるのか?」で、プログラムは二部から成り、有意義な半日を過ごしました。一部は吹田教会の近藤神父様による講話、二部はグループごとの意見交換、分かち合い、グループ発表者による発表とプロジェクターを使った吹田教会小林さんによるデモ授業などが行なわれました。最後はダニエル神父様による力強いまとめによって締めくくられました。その記録をここに紹介致します。

第一部「子ども達に何を伝えるのか?」近藤神父様のお話

### 【申命記6-4~8】

「あなたは心を尽くし魂を尽くし力を尽くしてあなたの神、主を愛しなさい。」

今日私が命じるこれらの言葉を心に留め、子ども達に繰り返して教え、家に座っている時も道を歩く時も寝ている時も、起きている時もこれを語り聞かせなさい。更にこれをするしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書きしるしなさい。



**近藤神父**：この態度姿勢を見習う必要がある。教える人は伝えるべき事を心に留め、記憶する。そうした上で次に子ども達に伝える。伝える事は公教要理で内容を理解し、覚え、伝えなければならない。

### 【ローマ人への手紙10-17】

実に信仰は聞くことにより、しかもキリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

**近藤神父**：まず聞く事、それによって信仰が与えられる。

### 【コリント人への手紙第一 15-2~4】

どんな言葉で私が福音を告げ知らせたかしっかり覚えていれば、あなたがたは、この福音によって救われます。さもないとあなたがたが信じたこと自体が無駄になってしまうでしょう。

**近藤神父**：福音とはキリストの出来事で、伝えられた言葉を覚えていれば福音によって救われる。覚えていなければ信じてても無駄になってしまう。

### 【ルカ22-39・40 オリーブ山の祈り】

イエスがそこを出て、いつものようにオリーブ山に行かれると弟子たちも従った。いつもの場所に来るとイエスは弟子たちに「誘惑に陥らないように祈りなさい。」と言われた。

**近藤神父**：いつものように習慣としていつもの場所でいつもの祈りをする。祈りも習慣とすれば祈りが伝わる。繰り返して教えることが大事。

### 【ヘブライ人への手紙10-25 キリスト者への勧告】

ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励ましあいましょう。かの日が近づいているのをあなた方は知っているのですから、ますます励ましあいましょう。

**近藤神父**：神の恵みを忘れ福音を忘れると救われない。福音とは神から受けた大切な言葉であり、その出来事を子ども達に伝える。そのためには、私たちがまず知って覚えなければならない。

近藤神父様がお話されたことは心に響き、子どもを取り巻く大人すべてが心したい事だと思いました。参加された方々から寄せられた感想を次に載せます。

○荒木雅子さん

どちらの教会も、中高生の教会での居場所づくりの必要を訴えておられ、各々精一杯努力されている様子でした。最後にまとめをされたダニエル神父様の言葉「小さな種を決し

てあきらめない。」「興味をもってくれるイベントと信仰のバランスが大切」が印象的でした。

#### ○磯野恭子さん

久しぶりにこのような機会が与えられた事を感謝します。最初の近藤神父様のお話は、聖書の言葉に基づいたお話で気持ちの引き締まる思いでした。大切なことを「くりかえし」教える事の大切さを再確認しました。極限状態(ルカ22-39)でもいつものようにいつもの場所で祈る習慣を身につける……子どもたちに教えるというよりは自分の課題だと思いました。

グループに分かれての分かち合いも楽しかったです。どの教会も小さい時は教会に来るけど中学生になると来なくなるというのが課題のようでした。マイヤーさん夫婦が中学生の勉強会を始めて成果をあげつつあるというのは本当に感謝です。吹田教会でも青年たちの集まる部屋があるということで、やはり、そこに行けばだれかいるという「場」が大切だというのが共通の認識でした。

プロジェクターを使ったデモ授業もとてもあのようなものはできませんが、勉強になりました。準備が大変だったと思いますが、有難うございました。

#### ○桜尾多喜子さん

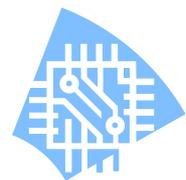
どんな時にも決して主を忘れない様に!! 私たちは自ら満たしたのではなく主によって満たされているということ!! 信仰は神ご自身に聴くこと。祈ることから始まる…ということ。私たちリーダーは先ずこのことを日々心がけ(自分のものとし)神から受けた恵みを子供たちに伝えましょう。と学ばせて頂きました。感謝のうちに。

#### ○マイヤー・デイビッド、成子さん

グループに分かれる前に教会ごとに活動報告をしてもよかったかな、と思いました。その後、分かち合いをした方がすぐ分かち合いに入れたかもしれません。教会学校を終えその後それぞれの教会を出ることもあり、一時の開始はちょっと早かったかなと思いました。とはいえ、とても勉強になり有意義なひとときでした。ありがとうございました。

各グループからの意見も参考に載せます

- ・子どもたちには居場所が必要。居場所がないと教会に来づらい。
- ・保護者の協力は不可欠。保護者同士のつながりも大事。
- ・中高生は個人に目を向けるとだんだん来るようになる。クラブや塾で忙しくたまにしか来れない子をつかまえて声をかける。
- ・中高生には主導権を持たせ活動してもらうことも必要。教会としていろいろな形の活動があればいろいろなことができる。
- ・子どもたちに自分が必要とされていると感じてもらう。
- ・イベントをきっかけに教会に来る子もいる。イベントも大事にしたい。
- ・教会として伝えたいこと、確かなものを持って臨みたい。
- ・教会が面白いと思わせるためには指導者が日常から勉強しなければ。
- ・若いリーダーがいれば子どもたちは楽しい。若いリーダーを育てることが必要。
- ・継続して教会に来るには小さい時からの関係が大事。
- ・何かの役割があれば教会に来ることができる。
- ・子どもたちが来ないというのではなく、一人ひとりに声をかけていきたい。



午前のごミサ、日曜学校の後に続いて吹田教会へ出向き、夕刻までのスケジュールはお疲れのことだったと思います。今後に向け課題も残りましたので次の機会に生かしたいと思います。月ごとのお泊まり会と日曜学校の機会に恵まれた池田の子どもたちが家族の見守り、教会の見守りにより、教会の次世代を背負う大人へと成長していきますように。

染野神父様、デニス神父様、畠神父様、日曜学校の先生方はじめ全関係者、保護者の方々  
に感謝します。  
(畑中せき子 記)

## 円ぶりお基金センター

箕面教会 若林なおみ

胎児を助けたい…との呼びかけに、答えて協力くださり、ありがとうございます。  
円ぶりおとは…受精後、8週までの母体の赤ちゃん胎児の学名にお金「円」をかけたものです。1口1円の基金は、妊娠したが、経済的事情、周囲の反対、自分自身の体の問題などを抱えた人の経済的・精神的支援を行って、相談者のなかから特に支援が必要と思われる女性に出産費用に充てられます。これで、100人以上の命が救われてきました。

お母さんのおなかに宿った小さな命。この命が、人工中絶という選択によって失われている。一人ひとりかけがえのない命なのに、どうしてこんなことが…。

「本当は産みたいのに産めない」そう悩んでいる女性たちを支援するのが「円ぶりお基金センター」です。

マザー・テレサは、『平和を破壊する最も危険なものの1つに人工中絶があります』と言われました。親が子供を殺すという恐ろしいことです。ここで、皆様と共に一つの美しい決意をしたいと思います。それはこの国で、誰一人として、男も女も子供もそしてお腹の子供も、愛されず見捨てられていくということのないように、ということです。愛する為に生まれてくる子供が世に対する神の太陽となり、世の中を照らしてくれる新しい生命のはずです。何故そんな子が死ななければならないのでしょうか。

若い男女が清らかな愛を持つことは自然のことであり、美しいことです。男女の愛という美しいものが、なぜ中絶と言うような結末に終わるのか、その点を考えていただきたいと思います。若い人が一つの過ちをしたからとて、それを咎めたり、さらに中絶するというような大きな過ちを犯すことを、社会が強いることはいけないと思います。その若い親を皆が助けてあげなければなりません。無垢な、まだ生まれぬ子を殺すということは、大きな罪だと思えます。

若い女性は、何も自分が望んで子供を殺すわけではありません。多くは親の反対とか、社会の目の圧力によって、自分の子供を殺さざるを得なくなっているのです。まず親が、そして社会が、それを赦し、認めていかなければならないと思います。

大切なのは、赤ちゃんを産むこと。そして、悩んだり迷ったりするような妊婦を減らすこと。そのためにも、社会環境を整え妊婦に優しい国にすること。若い世代への性教育を正しい形で実施すること。やるべきことはたくさんあります。ちいさな命を守ろう。これからもご協力をよろしくお願いいたします。



### 編集後記

今年もおしまい。いい年でしたか？あいかかわらず暗いニュース、恐ろしい事件が続いた年だったようですが、みなさまの身の回りはいかがでしたか？この編集後記を書いているのは総選挙投票日の前日です。ですから、2012年度最後となるこの『からだね』をお読みになる頃には、新しい内閣の顔ぶれが決まっているでしょう。どの党が政権をとっても変わらないよ、というのがあきらめに近い実感ですが、さて来年はどんなことになるでしょう。干支でいうと巳年ですよ。「同情心があつく、人のためにつくす」という宿命を持っているなどと謳っているサイトがあります。教会にはぴったりですね。新大臣がみんな巳年だといいいのですが・・・どうぞ良い年をお迎えください。  
(直)



からしたね 俳壇

松本善一

新蕎麦やいさかきまし昼酒

田の中の初穀の山熏りけり  
もみから

大西参子

北摂の星屑集む 聖夜かな

雑木林透きて冬日を深く抱く

村嶋伸子

抜きたての大根を煮てあたたかき

陽だまりを追いつおしやべり

繞く朝

木林山真美子

窓ひとつひとつ 聖夜の灯となりぬ

近寄れば冬芽 賑わう林かな



馬場とよ

波音のやさしき日なり冬老

夜寒かな猫に午枕 貸すことも

亀甲泰子

聖樹の灯あたりの闇の深くなる

雪の街二人の傘の遠くなる

山石尾純枝

朴落葉 還らむとして地の色に

診察を終えて 能勢路の片時雨



## 宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

私たち、キリスト者に与えられている宝は、神のみことばである聖書です。  
黙想の家では、毎月みことばを深く味わう集いを行っています。  
宝は大事にしたいですね。

### ■ 日帰り黙想会

1月24日(木) 10:00~15:30

指導：山内十束神父 費用：3,300円

1月25日(金) 10:00~15:30

指導：山内十束神父 費用：3,300円

### ■ 一泊黙想会

1月26日(土) 17:00~27日(日)15:30 指導：山内十束神父 費用：8,800円

申し込みは、黙想の家まで TEL. 0797-84-3111

## 【表紙写真説明】長崎県平戸市 カトリック宝亀教会

平戸市宝亀町1170、平戸島中部にあるこの教会は、明治31(1898)年マタラ宣教師の指揮のもと五島列島宇久島出身の大工・柄本庄一によって建てられた。数ある長崎の教会中でも15指に入る歴史を誇る。

可愛らしい外観の色が特徴、正面からはレンガ造りに見えるが主体構造は木造で両側面にベランダと床面まである、美しいステンドグラスをはめ込んだ窓を設けているのが特徴。  
(仲 真人)



## 説教台の掛け布

12月2日の待降節第1主日から、紫の掛け布が登場しました。  
白・赤・緑に続き、今度こそ、全ての掛け布がお披露目されました。

